



鹿屋競馬場での草競馬 (札元1丁目、寿4丁目)

昔

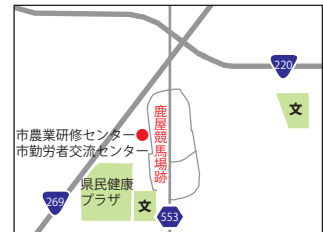
昭和38年



今



住宅地が広がる札元1丁目辺りには、かつて「鹿屋競馬場」がありました。昭和4年に西原地区から移転したこの競馬場では、昭和40年ごろに廃止されるまで公営の草競馬が開催され、手に汗握るレースが行われました。競馬場の直線やカーブの一部は、現在も道路として残っており、地図上でもその名残を確認することができます。



軽便鉄道(左)と国鉄(右)のレール

向江町の駅跡付近

今から103年前の大正4年、私鉄「南隅軽便鉄道」が鹿屋と高須間で開業し、鹿屋の鉄道の歴史は始まりました。軽便鉄道は、小型の機関車や車両を使う簡易な構造の鉄道。軽便鉄道の線路幅は762mmで、鉄道の標準である1,067mmに比べ、狭いものでした。当初の鹿屋駅は、向江町にある三角池の辺りに置かれ、その周辺は急速に発展しました。大正9年に鹿屋と高山間が開通すると、線路の折り返しが必要になったため、鹿屋駅ではスイッチバック(車両の進行方向を前後反対に切り替えること)が行われたといえます。昭和13年、古江と申良間の線路幅を国鉄に合わせて広げる改修工事が完了。古江から志布志までが同じ線路でつながります。路線名

カノヤタイムトラベル

向江町にあった「鹿屋駅」

昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ!



大正10年ごろの地図。鹿屋駅で線路が折り返している。

は「国鉄古江線」と改称され、鹿屋駅は共栄町(現在の市役所)に移転しました。移転により、鹿屋駅での「ゆるやかなカーブ」が実現したことで、以降スイッチバックは行われなくなりました。昭和62年、業績不振により国鉄大隅線は廃線。鹿屋駅跡の一角に建つ市鉄道記念館では、大隅線の貴重な資料や当時の映像などを展示し、その様子を伝えていきます。今年、同記念館が開館して30年にあたる年。10月14日の「鉄道の日」には、市役所で「国鉄大隅線を語る会」が開催され、講演やこの日だけの特別展示などが行われます。市内に鉄道が通っていた頃を知る、またとない機会です。